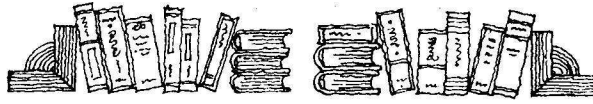


国語国文学会だより



No.3

1990. 5

国文学科卒業生の会

春の総会へのご案内

平成二年度春の総会・研究発表会を、開催します。ご多忙の御事と存じますが、お誘い合わせの上、ご出席くださいますよう、ご案内申し上げます。

日時・平成二年五月三十一日(木) 午後一時三十分～四時三十分
場所・香雪館 四〇一号室

開会の辞

研究発表

(1) 清少納言と橘則光

平成元年度卒業生 平野 英子

(2) 『和解』論―自然への帰依

平成元年度卒業生 谷川 晴子

(3) 現代日本語における主語省略

大学院修了生 大徳 陽子

総会

(1) 平成元年度活動報告・会計報告

(2) 平成二年度活動計画・予算案 学生・卒業生

(3) 自主ゼミ設立紹介

(4) 役員紹介

(5) 国語国文学会会長挨拶

(6) 奨学金授与

(7) その他

閉会の辞

秋季大会報告

平成元年度秋季大会・講演会は、昨年十一月二十五日に開催されました。そのご講演の要旨と懇親会の模様をご報告いたします。

◇ ヨーロッパの図書館

左記は、浅野三平先生の「ヨーロッパの図書館」と題した御講演の中でお話があった、先生の探訪された図書館等です。

一九八八年六月一日～九月三十日

スエーデン王立図書館

スエーデン東洋美術館

ストックホルム大学

コペンハーゲン大学図書館

コペンハーゲン王立図書館

西ベルリン市プロシャ文化財団国立図書館

西ベルリン日独文化センター

東ベルリンフンボルト大学

東ベルリンS.O.S

東ベルリン国立図書館

西ベルリン自由大学

西ベルリン国立博物館 東洋美術館

バイエルン州立図書館（ミュンヘン）

ミュンヘン民族学博物館（図書館）

ミュンヘン大学

ライデン国立民族学博物館（図書館）

王立公文書館（ハーグ）

ライデン大学日本学センター

ライデン大学中央図書館

ベルギー王立図書館（ブラッセル）

ビブリオテーク・ナショナル

ビブリオテーク・ド・ラ・ソルボンヌ

英国図書館

ロンドン大学アジアアフリカ学院

ボードリアン図書館（オックスフォード）

チャスタービーズイ図書館（アイルランド）

装飾美術館図書室

チエルヌスキー芸術館

ギメー博物館

パリ第三大学東洋語学校図書館

エコール・ド・フランス図書館

ジュルヌベルヌ図書館

リスボン国立図書館

カサブランカ図書館

カイロ大学図書館

◇ 童話と私

安房直子

子供の本を書きはじめてから、そろそろ二十年になります。

私が、童話を志した動機を、ひとことで言うとしたら、私自身が、子供の好きなものが大好きだからという事になるでしょうか。つまり子供が夢みたり、憧れたり信じたりするもの——小人とか、妖精とか、魔女……等々、この世の中には、決してあるはずのない、それでいて、ひよっと、どこかにかくれているかもしれない、そういうものに、子供の頃から憧れて、おとなになっても憧れ続けて、それで結局、そういう物語を書く様になったのです。ですから、私の一番好きな世界を表現するための「器」として童話を書くという形を選んだといえましょうか。童話を書く上で、私の一番大きな影響をうけたのは、子供の頃の読書でした。私は、子供の頃に本が好きで、特に、グリムや、アンデルセンを、ひたひた切って読みました。子供の頃感動した本の記憶というのは、不思議なほどはっきり残っているもので、今でも私は、あの頃読んだ本の表紙や口絵や、あまり上等でなかった黄ばんだ紙の手ざわりまで思い出します。それで、こういった本を、私は学校から帰ると読みふけりまして、自分もまねをして、おさないお話を書いて、さし絵をつけたりして、

大人になったらきつと、お話をつくる人になりたいと思っていました。

私は子供の頃から活発ではなくて、あまり外遊びをしなかった。学校から帰ってくると本を読んだり、ひとりで人形の洋服をこしらえたりしていました。で、学校の先生には、覇気のない子供だとか、消極的すぎるとか言われてきましたが、まあ、今思うと、私の場合は、それでよかったのではないかと思います。今でも、よく耳にしますのは、子供は外で元気に遊ばなければいけない、外遊びのできない子供や、多勢で遊べない子供は正常ではないと言われますが、私は必ずしも、そうは思いません。子供には、それぞれ個性があって、ある程度は、「あるがままでよい」のではないかと思います。

それで、私が子供の頃に出会った本の中で、一番心に残っていて、又、作品を書くうえで大きな影響を受けたのが、グリム昔話でした。はじめにグリムに出会いましたのは、学校に入る前、まだ字も読めない頃に、読み聞かせをしてもらいまして、それが、たぶん完訳本だったのでしよう、暗いところも残酷なところもありましたが、それを聞いていますと、目の奥に、暗い大きな森がひろがってきます。その森の闇の深さも感じられます。その森の中を吹いている風の音まで聞こえるような気がしたのでした。それから、字が読める様になって子供むけの世界名作童話全集で、またグリムを読み、その後、大学に入ってから、

あらためて、文庫で全巻読みました。大人になつて読んでも、グリムは、やっぱりおもしろい。昔感動したのは、あれは、決して、「子供だまし」ではなかったと思ひました。グリム昔話集は、今でも私の宝物です。時々とりだして読み返しますと、子供の頃と同じように心がおどつて、メルヘンのリズムが伝わってきます。

そんなふうで、私はずっと、フェアリーテイルに憧れ続けて大学に入りまして、それから、きちんと児童文学を勉強したいと思ひていましたら、児童学科に、児童文学の講座がありました。そこに、山室静先生が、いらつしゃいました。ここで、グリムやアンデルセン、北欧の神話、ギリシャ神話などのお講義がありました。学期のおわりに、レポートの宿題が出まして、創作童話でもよろしいという事でしたので、私は童話を書きました。それが、「空色のゆりいす」という作品です。

これは愛着のある懐かしい作品です。内容は、生まれつき目の見えない女の子が、世の中に、「色彩」というものがある事を知つて、心の目で花の色や空の色をおぼえる様になるという話。これを書きましたのが、大学三年の時、その頃から私は、色彩に興味があつて、色というものを、言葉の力だけで、ありありと伝えてみたいと思ひていました。このころ私は、童話の本に、さし絵はいらないのではないかと思ひていました。絵に助けられずに、言葉の力だけで、色もかたちも、描く事がで

きなければ、本当の書き手ではないのではないかと……。

今でも、私は、基本的には、そう思ひています。色だけではなくて、音も匂いも、手ざわりも、言葉の力だけで的確に描いて、読者に伝えたいと願ひています。

この「空色のゆりいす」を、児童文学の講座のレポート代わりに出しましたら、これが

「目白児童文学」という児童学科の雑誌に載りました。その合評会の席で、山室先生が、

「こんな作品が十ぐらい書けたら、一冊の童話集を出すといいね」とおっしゃひまして、

この時に、ああ、もしかしたら、私も、自分の本を出す事ができるかもしれないと……：

それは、なにか、だんだん目の前が明るくなつてゆく様な、夜が明けてゆく様なよろこびでした。それから、自分の童話集をゆめに描きながら、作品を書きためまして、はじめての本は、昭和四十六年、「まほうをかけた舌」という、これは、幼年むけのつくりの本になりましたが、その翌年に、「風と木の歌」という表題で、短編が八つ入った童話集を出しました。その中に、「空色のゆりいす」も入れました、解説を山室先生にお願いして、司修さんの美しい絵がついて、これが、私にとって一番愛着のある本です。

「空色のゆりいす」は今読みかえしますと、二十の時のおさない、つたない作品ですが、この作品の事を思ひ出す時には、いつも、初心にかえる思ひになります。

「空色のゆりいす」で、私は色の事を書きました。その後も色彩の事を考えるのは好きで、新しい作品の構想を練る時、まずうかんでくるのは、色のイメージです。たとえばみわたすかぎりの菜の花畑を、小さな女の子が走つて行く光景とか、大きな木に、たくさんの白い鳥が、花の様に止まつている光景などが、一枚の絵の様にうかんできます。

それからもうひとつ、私は食べ物の事を書くのが好きです。それは、私が食べ物に特別興味をもつてゐるというよりも、主婦の仕事をする様になつてから、台所にいる時間が多くなり、八百屋さん魚屋さんに行く事も多くなつて、そういう日常生活の中から、ひとりで、食物の話を書く様になつたという事でしよう。私は、お料理の本を読むのも好きです。作り方だけを書いてゐる実用的なものよりも、お料理のエッセイ。こういう本を読んでいますと、料理人の生いたちや、苦勞ばなしまでわかつて、そのうちに、その中から、ふつと、お話がうかんで来たりします。

きょうまで童話を書いてきまして、今思ひております事は、童話というものは、日常生活の中から自然に生まれてくるもので、特に珍しい体験をしたり、遠い所まで旅をしたりして、そうしなければ書けないというものは決してないことです。平凡な生活の中からいくらでも作品はできてくる。日常の仕事に、生き生きとはげんでゐる時、童話の素材は、たくさん見つかるのだと思ひます。

◇和やかでした懇親会

懇親会は新装オープンした桜楓会館で、夕方五時から七時まで行われました。夕闇迫るなか、白い瀟洒な建物が私達を迎えてくれました。研究室の先生方、卒業生、在校生の総勢六十二名、サンドイッチやお菓子をつまみながらの和やかなひとときでした。安房先生もにこやかにご出席いただきました。綾野道江さんの司会で、さまざまなスピーチをうかがいました。盛会にして下さった皆様、ありがとうございました。

井上百合子先生 漱石論の集大成刊行!!

この春、待望の『夏目漱石試論——近代文学ノート』（河出書房新社、平成二年四月刊一八〇〇円）が出版されました。

漱石を中心とする研究論文四十編を収めるもので、先生の多年のご研究の成果を一時に拝見できることは、たいへん嬉しいことです。

先生は、只今ご病気で、ご療養中ですが、ご著書の上梓をお祝いして、国文学科研究室と先生のご指導を賜りました卒業生有志を中心として、出版記念会を開催する計画が進められております。

伝言板

研究サークルへのお誘い

現在、左記のような研究サークルが、卒業生を中心に開かれています。多数の参加を期待します。なお、新設希望の方は葉書で当会までお申し込みください。

*平安文学談話会 土曜（年四回）

代表 高野晴代 ☎三七〇一六八〇六

*内親王総覧作成 土曜（月二回位）

代表 楠木理恵子

☎〇四五―八四一―六五二五

*能楽研究会（観世流・室生流）

土曜（月二回位）

代表 亘理美代子 ☎九四七―二〇四九

*古代中世文化論 第四月曜

代表 山田佐和子 ☎九七二―四八四三

*中島斌雄先生の俳句を読みながら 土曜

代表 綾野道江

☎〇四四―九六六―五四二五

*卒業生の文学活動の跡をたどる

代表 斉藤令子 ☎七八一―六三八〇

平成二年度会費について

平成二年度分会費千円の納入をお願いいたします。振替用紙を同封しましたので、裏面に回生・御自宅の電話番号等をご記入の上、

郵便局からお振込みください。

なお初年度に千五百円納入なさった方は、用紙にその旨明記しておりますが、五百円の納入で結構です。また、すでに本年度会費を前納して頂いた方には振替用紙を同封しておりませんのでご了承ください。

*当会から入金のお知らせはいたしません。振替用紙の受領票を領収書の代りとさせていただきますので、大切にお持ちください。

平成二年度の活動計画について

春の総会で承認されますが、現在秋の講演会、懇親会、自主サークル活動、研究発表会などを予定しています。研究発表をご希望の方は、早めにご連絡ください。

当会の運営について

国語国文学会卒業生の会は、回生委員会、またその中の常任委員会、さらに学校側委員とによる運営委員会の討議によって運営されています。ご希望、ご意見をお寄せください。

一九九〇年五月一〇日

発行・日本女子大学国語国文学会

卒業生の会